

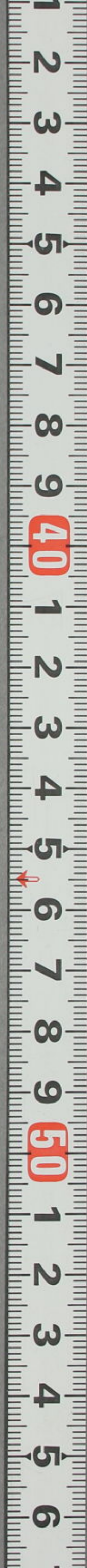


見通
策

賣卜先生糠依

金

9
3883
1



門 9
3582
1

早稲 大蔵
第21.3.1 史
藏 書

賣卜先生糠俵序

賣卜先生糠俵序

其の旨は、余の病あり。賣卜先生と

以終日舌と耕と。軀は倍ふにも

あ。次子小對して、孝を演（る）小

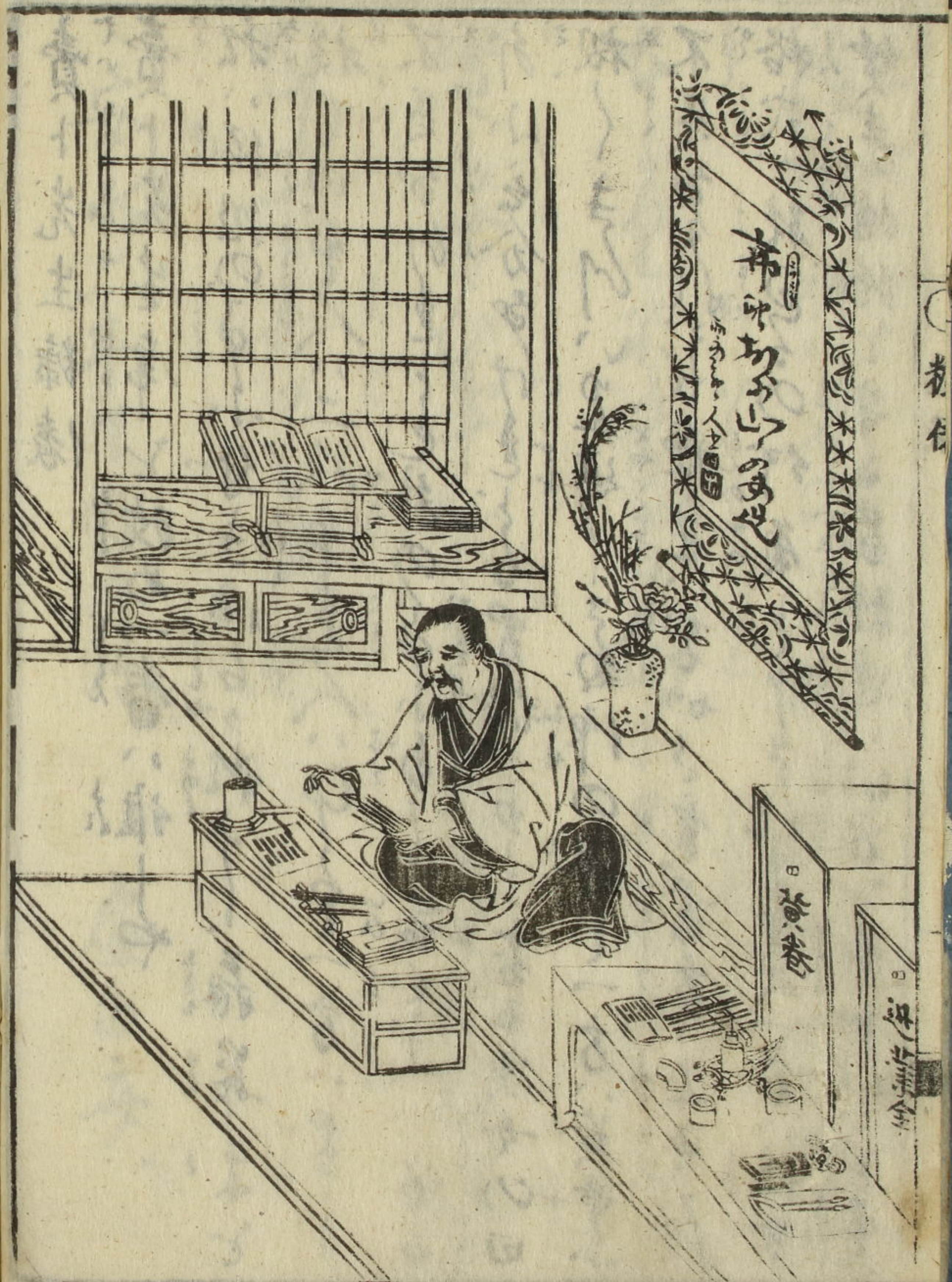
遇して、忠を説と。自ずから不能

陰陽師方の上知れども是
中より不孝者論小不貞はつて小
實もさういふ事とさういふせは糠俵に
りて其口と緘ぬ

安永六年丁酉五月

虚白斎

賣卜先生糠俵
賣卜先生席と改め一番ハ誰よや
私ハ縁組のふけさけはちう頼る。新井本と
投て曰る人二人も人ひく一方ハ男
不足おけきとも外のふけさけ言ふ又一方ハ
介ふら分おけきとも男振が少くある次女の日
根くま川いん通うさる仲の通を一方ハ数量小
不足な多しとも親達ハ苦かゝ家者方へ上るれ
格式ハ能るるの行角とヤります。又一方ハ法事
費素儉約を守る家親達ハけ方を重しと思ふ



左様小ごさるませぬ箱の口親をい何とぞい
親は質素の方と申し私顔を見て縁れ
道ごさるし押付しれ其方のん次第と有故
私もん迷ひ占小住さる家。箱目小角立て曰ト以
決疑不疑何ト同ト路二箱有て同人もぞく不
これトて天小住。一箱道小ト入るね。縁組
多き義も入物縁のたさるし押付しれね。い
親達も親を育つ要し。汝も嫁入せば子と持て思ひ
知親の子と思ふ。帳ゆあはなれ。後もし
免る角あるまい。し未の未すて業。を親の

あはれする方。娘の不機嫌。娘の好む親の事をい
し知へん。の付る。鼻の先の男。撰む。後箱が
日。親の格。天のさ。親は背く。天小背く
の。國。身。の。立。て。親。更。婦。人。の。貴。も。時。と
親。は。流。し。日。の。夢。教。り。の。故。小。子。て。も。子。て。も
子。て。も。娘。の。女。の。孝。の。嫁。入。て。い。ま。小。住。又。の
親。は。孝。り。子。て。も。子。小。住。も。子。産。の。親。小。住。は
後十五年。廿年。孝行。は。是。も。親。の。事。は。方
以。孝。を。申。さ。せ。め。て。の。孝。り。流。も。か。ん。く。涙。と
拭。子。く。帰。り。て。孝。行。是。せ

其次、誰しも

私渡せし糠高賣ゆんまとい過いしとせし

ちりまきしと身付して大晦日すすまきし

年中糠御とともるも殊に高賣留と被り

是くの月何高賣が性小合ん。右占給へる一賣ト

箱の口何高賣も同。一升入徳利二升遇

遇さる時也。伴者一備小仕刻く小糠より入

叔又まふ塞箱が馬といふ事。わね信とて

能聞し。其えの軽い返せが菜ふぬて達者

居るやう。高賣留ていづひ多くあり煩うて死

ち。高賣が解系昌して俄金持小成や。其金故小

盗小奪ひ凡裸は成る。性く見ゆ。ハ知ぬるや

西へ往く。バ太ふ唾すいものと東へ往く。太ふ

いと思へ。西へ往く。何程の仕合や。内小

居。バけ足は踏欠すいふと。棚の物が落掛て

天窓へ疵が付る。其疵のきけ。持病の

頭痛が治る。人間。塞箱が馬叔い人間

糸串の因かり。私に遠入。塞箱が馬とい

言さぬ。事とせぬ。此事としての福ハ

己がふにふなり。事小私と交へて情を具し
来る福福者凶苦樂ハ塞がれぬのふはさる

其次ハ誰トヤ

愚老が定命ハ占給ふ人。病の曰長壽がふをふ
将死とれ我ハ百歳まで生くと思へ百歳まで
生くと思へ百歳八十とやと思へ八十唯これ
百のと思ふよりれる也。七十まである人思遠ハ
九十ハ十とやと思へ八十ヤ六十とやと思へ
六十皆思ふこの事也。命ハ逆も早く先りなく

今を以てそのもの也。我輩小ち世界皆同年斯
くハ生れ死に在天小け方の知つて事では
舌長其天命と縮む人。飲食社席乃不
養生七情れ用ひやうして一生の内歳年縮むと
ある人。四十とやある人天命ハ五十とやある人。十
とやある人。五十五が天命也。醫書小曰我命在我
不在於天

其次ハ誰トヤ

けるお續後見ぬ。占給ふ人。病の曰友見

悪くハ入慎之善事と行へ。善事と行へば
 昂吉夢也。持小返付貪之。性も小克福
 かな。たぐひ夢と見ても其夢と鼻小掛け
 放り行へ。福忽ち来るべし。
 又同翁の教もて。凶夢も吉と夢り悪女を
 美女小成るもの。噂か。不思議もあるや。何
 翁答て曰。美目好れ者其美目好と自美目好と
 言ふ。其美目好と失ふ。媿者其媿と自媿と
 す。其媿と消る。秋容の淡面を色小何
 諸道皆如斯。わくても。鈴鈴公あふ味噌汁の

味噌臭く。猪油汁の猪油く。其の淡るはうけん
 赤羽二重ハ肌目と細く走も白く媚より。あしと
 も百日の消と百二十目と。あしと。能ハよ。あしと
 い。疵なるも。と。と。指も人稀。あしと。内門。二重ハ
 文も黒く。肌目も。床て。不。量。あしと。拾。毛。縁と
 九。也。と。低。ぬ。れ。あ。し。と。惚。る。人。教。多。あ。し。と。客。の。い。く
 是。いた。も。あ。し。と。百。目。の。物。と。百。目。拾。の。物。と。拾。の
 と。云。く。也。何。是。あ。し。と。亦。あ。し。と。人。背。や。翁。曰。此。如
 出入。あ。し。と。去。あ。し。と。今。あ。し。と。拾。の。百。目。と。見。多。代。物。ハ
 皆。あ。し。と。有。て。油。の。あ。し。と。走。の。あ。し。と。白。拾。と

主親と持し、い入情を、い若と止し。
百病、い若と止し。天命と
樂し。又同、い若と止し。天命と
唯力弱くて、い若と止し。天命と
弱日力の、い若と止し。天命と
人、い若と止し。天命と
事、い若と止し。天命と
柔と安んずる者、い若と止し。天命と
我、い若と止し。天命と
は、い若と止し。天命と

和清と教と知し。能騎者、い若と止し。天命と
河と馬と。虎と搏する者、い若と止し。天命と
実の勇、い若と止し。天命と
あ、い若と止し。天命と
克、い若と止し。天命と
比、い若と止し。天命と
不勝の、い若と止し。天命と
さ、い若と止し。天命と

次、い若と止し。天命と

次、い若と止し。天命と

私十二歳より去方へ奉公小あつ今年廿又歳
かく銀子と考へひる。其銀と考へん。こはやく
もつた。彼是の換重里親方の祐と余はわけ
合ふ。今もその淋を。欠落と胸と居へい。通人の
柳。然方角。考へ下さる。一。箱。注と振ていく
花。一。果。増と考へ。一。卦。とや。若。一。果
本と考へて。死。ひ。く。鳩。同。て。曰。何。國。へ。花。を
あ。果。の。曰。け。里。の。人。く。我。聲。の。要。と。嫌。ふ。故。小
花。去。也。越。く。く。考。て。曰。花。所。先。の。人。く。と。ゆ。く
は。あ。の。画。と。嫌。ふ。一。ゆ。あ。の。わ。れ。と。直。さ。は

ゆ。て。花。さ。る。年。の。わ。ん。其。え。も。い。通。り。唐。天。竺。へ
飛。去。し。も。心。の。要。と。直。さ。て。一。以。果。定。然。雲。々。と。
が。れ。ち。え。ん。れ。り。一。生。と。考。り。果。ん。主。親。は。勘。當
更。て。天。下。の。清。帳。面。も。と。人。の。内。も。一。考。さ。て。
今。又。中。心。小。立。端。中。遇。と。改。め。欠。落。と。考。ふ。
ま。づ。今。中。心。小。端。り。て。も。金。は。皆。を。し。果。と。考。へ。通。也。
と。言。ん。愛。の。中。心。過。則。勿。憚。改。是。の。過。は。此
考。り。有。ん。か。り。小。底。と。叩。き。考。さ。り。考。ふ。と。説。と。考。ふ。
許。容。わ。は。も。考。と。考。は。懐。ち。が。れ。の。事。と。不。志
心。力。を。考。し。私。心。考。奉。公。せ。よ。叔。浪。子。の。代。り。と

給浪も仕着と辞し。真魚小付して宿遠入。巴
跡治と償ふ。あまの者先かくして。あ
後の智小をふても。なむえん。あまの道と
悔む。うら。何をうらうらん

次、誰トヤ

けつんぐで。こまをま。果、十次九つ。次は
あてとと。あまの。あまの。あまの。あまの。
あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。
あまの。あまの。あまの。あまの。あまの。

あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。



否

甄
叔

210

も一見遠ひとやと思案の底と叩。紙屑を踏んで
 はげせども更小不見。波は思ひ廻る。小疑。た
 事ありて潜ふ心と付て見ふ。小其人の顔と
 そのくまさぬ。立振舞は舞るまじく。慥はげ人の
 仕業とハ刀をさぐ。是といふ沙撈もなり。まひ
 出いて要かんや。若かんや。考給ふ。一羽の
 日過て人と疑ふ。人と我と共ふ。危く
 昔一芥とまふ人あり。其隣の子と疑ひ。其顔色
 聲音起居動作と見る。ふ。む。とて。次曲よ
 あ。さる。はる。日と経て外より。里波弁と持来り

永く借用辱と返年以芥主神々疑曉き其のち
 隣の子と見取。顔色聲喜。起居動也。微塵も盗
 臭れ変わる。是等ハ是芥よ心と失ひ。者なり。
 汝も其失ひ。金と尋んり。先その失ひ。本と
 尋見る人。唐土小二人羊と牧者あり。其一人ハ
 書小見入て羊と失ひ。又一人ハ情愛して羊と失ふ
 其所地ハ異なり。羊と失ふ。至てハ一つなり。其
 羊と失ふ。本心と失へばあり。書物も書物乃
 見やう小なり。其本心と見失ふ。現や博奕名聞
 利欲。名欲はおぬく。や。あ忍こ。

其次ハ誰トヤ

鳥目一歩トモ百病の業ありと聞カ考め何羽の

日不断保養ニ余トモ古書曰聖人不治己病

治未病不治己乱治未乱病已成而後某之乱已成而

後治之譬猶渴而穿井國而鏹兵ト已小病を

療ハ衣れ垢と濯ふ如ク一濯くおて強く成る弱く成る

第一考よ

能書

臣ハ忠よ

一々奉る小いとゆ

又同じと川の夜具よ十人寐て寒かざる考あり

と聞め何答曰何程結構なりと純子孺孫ハ夜具

なりとも二人ハ知る比三人ハ寐るしまた是と毛

乃夜具よせば十人も十五人も持たばべ一寒夜

御衣と脱むひ一天子も有り忍みぬ二人毛綿

と堪忍さるも十人寒苦を凌ぐ事

其次ハ誰トヤ

私昨夜提物と落し落し知れ考下さるへ一羽田者

より裸で抱ハ落しぬといふ常々裸の事と思へ

康表

これ物と落さる呪なり。世古より。産む者も死する者も。裸て生れ。裸て死する人ある。其れ裸て生れ。裸て死する人の中。凡裸て居る人。いふもなき。いふ所。余は。何と。落れ。何と。失ふ。せん。其れ裸て。産む。其れ裸て。死す。けり。金銀財宝一物と。我りの首んや。是皆世界の空なる事。明かり。是と。我れありと。思ふ人。いふ。榮耀。榮耀。小。金銀と。惜ま。ば。人の事。小。吝れ。ものなり。海。す。か。ら。や。昔。楚の國の王。持。出。て。弓と。七。り。其。近。習。ふ。ん。

楚王の曰止。楚人弓と。失ひ。楚人弓と。ゆん。又。何と。是と。おん。孔子。問。曰。惜。乎。其。不。大。也。不。曰。人。遺。弓。人。得。之。而。已。何。必。楚。也。楚。の。字。け。け。け。や。と。け。方。の。親。玉。の。け。ひ。也。今。世。間。の。奢。れ。人。奢。れ。人。金。銀。の。手。也。と。我。物。と。や。と。い。け。の。け。け。け。思。ひ。也。一。る。遠。ひ。也。金。銀。財。宝。ハ。根。底。先。底。起。り。なる。け。け。我。物。で。多。ひ。け。け。工。夫。く。

其次、誰と。白。い。假。の。物。と。え。あ。り。然。白。い。小。心。な。く。

是は、いかにある事やんか考給ふべし。猶曰、白ひもり
帳のものも、紅白粉、いかに考給ふべし。紅白粉、
うしろの物も、髪、の襟、衣紋、帳の物も、すや、紅白粉、
も、粧、白ひも、いかに考給ふべし。裸、帳の物も、すや、
或は、琴の、凡そ、の、音、いかに考給ふべし。和、衣、
手、跡、な、もの、物、いかに考給ふべし。和、衣、
です、いかに考給ふべし。ね、だ、と、目、鼻、口、も、いかに考給ふべし。
いかに考給ふべし。音、いかに考給ふべし。可、いかに考給ふべし。水、火、風、乃、
奇、細、工、唯、今、生、いかに考給ふべし。御、いかに考給ふべし。五、輪、と、いかに考給ふべし。
いかに考給ふべし。想、や、いかに考給ふべし。天、いかに考給ふべし。

其次、誰、いかに考給ふべし。
いかに考給ふべし。腰、物、いかに考給ふべし。給、いかに考給ふべし。我、等、小、いかに考給ふべし。奢、多、いかに考給ふべし。
孫、女、乃、具、性、小、合、いかに考給ふべし。求、いかに考給ふべし。羽、目、の、鞘、と、いかに考給ふべし。
曰、自、公、小、奢、と、思、道、具、ハ、別、性、小、不、合、也。奢、ハ、細、微、と、
慎、む、べし。是、程、の、事、ハ、何、れ、也。彼、も、いかに考給ふべし。の、事、ハ、いかに考給ふべし。
自、放、庵、か、いかに考給ふべし。以、盡、一、杯、か、いかに考給ふべし。の、奢、ハ、未、小、奢、り、て、ハ、
大、船、と、いかに考給ふべし。或、人、妙、に、考、給、ふ、一、牧、場、也。カ、登、と、いかに考給ふべし。
け、程、我、亦、如、こ、小、いかに考給ふべし。侈、り、な、いかに考給ふべし。と、いかに考給ふべし。俟、重、も、奢、也。

け脇指へおきこし。扱は様ふけ縁取不ねおふ
吟味し給ふ。とまけ縁取と奢りぬ清小
人育て早縁取はけ紋不足あらばや奢給ふといふ
亦紋も奢りぬ中もと堪忍なりと見え目貴
紋も奢りて見え小堪忍又目貴も奢り。頼り扱へ
初め奢りあると思ひ。誤今もて不足おしを
まけ堪忍すべし。堪忍のありぬ。肝心の魂とね懸
身と吟味し。是も奢り切腹は。以鴉目とす。扱
是ふおねの小柄と。方々吟味し。是も奢りぬ。扱
腰ね。約合。下着中着と奢り。是とさげ巻と指て

い衣ね。い不似合と呉服。夏法はけ袴は。い時藏不
此小袖は。い昔ハ。奢るあど。是もまだねおふ奢り
看きて。指て。さうさげても。是との朋友。一
後遠く。て面白う。小吟味。て風情ね
意の付合と。侈り。い付合。い座あ。い下地。かを
おろ。が不風雅。あど。家業の勝手も。ね。い。家業
を。廣め。遠地。の。物好。是より。奢り。小。買。入。て。ね。お
身。作。と。拵。振。虫。浮。沉。い。ハ。世。れ。習。ひ。ぬ。

其次ハ誰トヤ

先生は、おまへがなす事業を果て果てる。金も、
樹の作り様も考へ給ふまでだや。我輩に成て
日人草木小培事と知るとも、知れぬ小培より大
知れぬは不培故。貪欲して是る事と知れぬ。
是る事と知れずし、千箇の室も母れが如し。是と
貪む人もといひ、又貧賤をもつゝ是る事と知れぬ。
是る事と知れずする事と知れぬ。是ぞ萬福長者
なり。何とう有と。何とう無とせん。戒人の修りた
戒、庭前は梨の樹あり。やり実と供ふ事九十年
三ツ不足真聖年ハ三十生りけ。年ハ亦不足事ナニ

其翌年ハ八十生てサ不足梨の救益セハ不足救益
増一後ハ賞ハ是して賦ぬ一此年の大風ハ
梨の樹倒もて枯然其後ハ梨もさハ不足事の
世にても一鬼ハ病と取くも一と出然

其次ハ誰たれトヤ
 酒さけの酔よめ本ほん性しやう主しやうししも。昨きのうの跡あとと聞きこはるまへつて酒さけの
 換か量りやう乗のりらん。翁おきなの曰いは。読よは一杯いぱい人ひと酒さけと飲のみ二杯にぱい酒さけと
 飲のみ三杯さんぱい酒さけと吞のみ人ひと酒さけと飲のみとんハ。爵しやくと散さんる血ちと物もの
 け。毒どくと消ける。物もの掌てと防ふげ。夏なつハ暑あつとけ。冬ふゆハ

理と非と曲てまひ仕る。是徳の二也。嗚乎。酒あり。我
く。翁の曰。酒が所謂徳也。我所謂過也。人賢愚
となり。老わたり。なり。要る事。不能。父母疾
所。冷。又。身。ま。り。ひ。て。酒。で。要。と
拂ひ。注。款。忽。笑。款。する。是。過。の。一。也。孟子。曰。
知命者。不立。岩。牆。之下。危。と。恐。れ。る。命。と。知。
ざる。者。也。却。て。夜。道。を。面。白。く。ぶ。門。の。恐。と。あ。く。災。と
振。く。事。是。又。過。の。一。也。や。汝。情。若。人。は。人。と
争。ひ。非。と。理。と。曲。て。ま。ひ。仕。る。と。酒。の。徳。あり。と。只。
此。災。の。門。酒。は。是。災。の。根。也。汝。い。ま。と。醉。が。醒。め。

ま。め。く。休。め。後。は。ま。め。
客。の。曰。酒。の。徳。は。ま。め。は。災。の。門。なり。若。大。師
は。より。孫。院。と。吹。出。し。る。翁。の。曰。嗚。呼。佛。と
我。も。な。り。け。り。南。無。阿。彌。陀。仏。に。は。か。り。八。佛。と。出。さ。と。
鬼。と。出。さ。と。嘘。と。出。さ。と。實。と。出。さ。と。福。も。出。で。
禍。も。出。づ。新。く。あ。る。と。は。疎。く。わ。る。と。は。敷。る。と。は。成。る。
も。口。に。は。る。新。あ。る。小。姓。と。盗。に。する。子。も。何。り。欠。落。
さ。る。是。も。あ。り。不。義。の。刀。具。も。不。持。あ。る。故。者。か。し。で。
不。慎。あ。る。か。し。古。語。曰。一。言。以。興。邦。一。言。以。亡。邦。

甚次ハ誰トヤ

波世ハ返シテ父ハ以テ餘カ有ク父盲ナルカハ

一父不知アルモ道小カアル所ハありヤ

論語曰君子務本本立道生

孝弟也者其爲仁之本與

孝弟也者其爲仁之本與

文章と工と小書と詩と達者小

といふ言産業と云々

俗のわろ万巻の書と周記ても

づる人ハ父不知の孝子小ハ

我旧里ハ孝子あり

是なり我見ル知とて其一二と

よハ屋上ハ水と洒とて老と

裾ハ卧て足と暖め家業の外ハ

父母の傍ハ同殿也其下の則ハ

毎小ハ老母と負て衆徒ハ亦

と色々と妻と不娶者の妻ハ

を母死て後初て娶今ハ男子

孝子外ハより侍里庭の濡る

妻小児の尿なりと答ふ夫の

吾輩我輩此小使してめけしは事。必きあり
 勿作ちしとら来と禁め其土と堀り此の土と入
 ちて其土と又めけし親の身小弱を給しおの恐あり
 ても子其の勿得自身も不者。恐れや。あり無ん
 或日我同て曰。是下の者公。一つは亦おひま。信の
 師はまゝく如けや。孝子。和らふ育て曰。孝り。中く
 我おし。此の丁及る小れ。身小弱。皆父母
 の胸を其。其身小弱。皆父母の胸を其。其
 ても。とく。也。其より上の孝り。とをさ。け。も。バ
 孝り。とて。い。ある。と。と。流。涙。して。又曰。老。母

在。此。因。は。我。小。代。り。て。侍。者。を。一。故。小。産。業。の
 介。は。内。と。不。出。何。の。餘。力。あり。て。師。小。け。る。と
 清。ん。今。小。至。て。か。の。く。不。学。文。育。た。り。と
 諸。り。ぬ。と。諸。り。恐。是。ホ。の。人。ハ。雖。日。未。學。必。學。ある
 人。ハ。勝。り。り。と。も。ま。ん

其次ハ誰ドヤ
 近年ハ昔一と遠ひ時節。要ふて。渡。世。と。じ。
 何ぞ。能。身。過。育。ち。さ。や。少。考。後。ら。毎。し。
 公。羽。宜。う。と。吹。て。海。士。の。か。る。藻。は。至。ま。我。か。く。と

照の如きれ後の何の角れと後少と立ぬ寐と
り。去とて八目と覺一と

其次ハ誰トヤ

拙者生得後家少て腹立とれハ逆され身と
怒り罵り。科され諸乃具と投けく里杖棒と
振とて。奉小息と吹けく。燃立とれハ火小
入とて。初とれ。そとて後家少。すれ。あ
後悔亦甚一。は物も我後家も我後悔とて
後家少。ハ後家と無と後と一人あもておれが

衆一。度て衆ハ後家少。生得とれハ是なりと
ま。後家少。是少と医者の有。後家も。亦考
給とて。翁の曰。房小。後家少。は。後家
少。脈とある。後家少。愚道とある。後家少。後悔と
ある。去とて。後家少。生得とれハ。後家少
某とて。一云。生得の後家少。今。後家少。出
せ。出とて。後家少。肉。後家少。後家少
ハ。後家少。病也。上。向て。後家少。出とて。後家少
より。後家少。人。後家少。後家少。後家少。後家少
なりと。後家少。病重なりと。後家少。後家少

小児と懐き膝へ尿けられても。汝又腹を
穿る歟。曰否。相人。我あう故。腹を不出す。同
登板板。凡小兒教て。小兒先は此。其は喜し。何
登板板。よんた故。家亦腹をさす。一。膝へ何ぞ
無我。無心。よ。あうさる。も。腹を穿者。肘と注ぐ。腹よ
青筋立て。曰。公羽乃。おー。入は。が。なり。其。我。無心。
人。は。腹と。さ。さ。ゆ。た。お。一。あ。ず。や。我。同。如。奈。
わ。づ。腹の。さ。さ。る。教。と。同。公。羽。答。て。曰。ま。げ。人。
後。と。立。て。さ。さ。る。腹。り。せ。よ。是。腹。穿。を。治。も。
妙。割。也。も。一。我。無心。の。腹。穿。無。我。無心。也。ん
後。を。あ。う。ば。河。ん。ぼ。あ。り。も。出。次。男。く

其次、後、也
私、田舎者。姑、よ。憎。ま。い。て。家。出。し。て。尼。小。も
成。小。款。い。け。そ。死。ん。で。も。は。四。ふ。う。と。取。川。を。川。を
白。て。見。て。下。さ。る。と。す。て。公。羽。答。本。と。投。て。曰。船。此
危。を。畏。れ。く。水。は。投。る。者。の。こ。ろ。一。甚。恐。ひ。今。死
で。は。修。羅。道。へ。ま。し。運。ま。た。く。人。尼。小。あ。つ。ら。そ。
世。と。恨。て。の。死。る。し。は。是。も。悔。し。修。羅。の。種。あ。
若。は。能。く。志。し。う。せ。い。尼。よ。成。小。と。及。ば。ぬ。死。ぬ。る。小。

病人よおし。腹をさぐる事ハおしぬ一寸でも
 氣が立て。茶及て毒とあるおし。擲。杖。ト
 かり機嫌と取。淋。げ小見ゆ。酒。用。の。も
 又。と。用。や。の。林。事。に。傳。云。合。て。帰。り。ぬ。嫁。ハ
 教。は。臨。く。朝。の。鳥。の。先。小。と。夜。の。明。る。と。使。ま。う。紡。に。
 居。と。仕。業。此。す。と。同。小。糸。と。績。と。夜。ハ。と。り。寐。
 紗。り。て。夜。半。ハ。つ。す。で。寝。仕。業。糸。と。績。と。使。ま。う。紡。
 茶。味。と。酒。ハ。二。之。交。た。日。毎。く。小。用。多。り。未。と。二。由。り。に。も
 盥。と。さ。る。小。具。驗。し。手。の。裏。と。忍。ん。如。く。日。比。手。を。さ
 鬼。者。人。家。慢。の。角。と。と。あり。と。落。し。嫁。子。と。可。也。

の。海。而。已。る。人。其。厚。柔。和。の。心。と。あり。今。に。佛。を。さ
 と。と。達。者。て。居。る。げ。お。是。ハ。奥。庭。の。方。便。と。て。昔。に
 は。の。料。理。し。て。嫁。の。力。と。扱。し。ぬ。あり。け。方。に
 か。じ。ん。る。し。ば。先。少。と。か。じ。ん。る。し。た。人。捨。小。舟。
 流。と。か。り。人。の。舟。小。わ。と。り。し。も。け。方。が。捨。小。舟。を。し。
 出。ん。の。舟。後。ハ。ま。ね。先。の。舟。の。怒。ら。る。け。方。の。舟。
 公。サ。し。ば。也。舟。ハ。公。有。る。最。後。小。舟。怒。り。罵。つ。と。く
 果。て。ハ。波。風。荒。く。あ。る。と。何。を。一。舟。が。着。ふ。も。知。れ。ぬ。
 戒。め。れ。る。人。の。要。さ。し。ハ。等。し。もの。も。先。の。心。れ。わ。さ。る
 け。方。小。力。の。有。故。也。カ。と。と。扱。て。も。和。ら。ん。だ。

かこの抜さる故と思ひ又力とと抜べし。其上少と
和がさういす。力この抜さる也。又力とと抜べし。
ゆゑ其上少も和がさうん。力この抜やう思ふねと
思ひ又力とと抜べし。ゆゑ其上少もくさるの
心の和くすや。げ方の心の力とと抜け。安ん
おとねおと

其次ハ誰

私ハある方。何れの神何れの佛も立致掛て
納受わらん。考へるべし。神の曰をて滅の

力。よかるひなは。ねとともとも神や。ゆとらん

神ハ守るを。なり。ねとともとも神や。ゆとらん

神ハ隔るを。なり。人の心。神と隔る。遠のる。とハ

西路也。其まある。たを。所。ず。た。あ。無。乃。と。行。こ

無量の。く。と。其。方。と。や。し。る。は。皆。已。る。ん。其。た。り

何れの神。小。行。ん。や。又。神。ハ。心。を。の。路。は。な。る。と

ゆゑ。惟。ま。ある。路。既。と。携。く。あ。る。や。う。小。思。ふ。あ。り

不然。一面の神。國。が。れ。バ。神。の。有。る。を。給。は。る。如。や。あ。る

月。は。見。え。ん。小。國。は。小。味。と。知。る。こ。も。神。の。有。る。如。や

小。何。れ。び。と。誰。但。一。人。の。力。と。と。や。ん。と。り。ま

神詠は 皆人の直とんども其あるの神の神

又神の神なり

又同安産あり。雖産あり。け考如。公羽曰。人の人と

産と見て。人の人と産と見。然るの人と産。人の

人と産。よは。ゆんぞ。人の力。て。人の人と産。と

ゆんや。止む事。とゆ。て。て。人。よ。同。て。人の

産。と。多。ん。客。同。曰。是。は。其。神。の。告。子。彼。は。け。の

告。子。あ。い。若。し。一。り。を。伝。ふ。如。此。と。有。や。否。や。

公羽答曰。天下皆。告。子。也。ゆんぞ。彼。は。け。而。に。あ。ん。

禽獸。魚。草。木。の。出。生。と。る。一。つ。と。告。子。小。あ。ん。

あ。又。同。告。子。あ。ん。人。力。と。そ。う。て。も。懐。妊。

するや。曰。否。只。居。て。懐。妊。せ。ん。其。人。力。本。と。告。子。

かり。と。知。つ。て。告。子。は。悟。同。べ。し。譬。へ。田。地。に。種。を

告。子。也。耕。と。種。播。は。人。力。なり。人。力。と。告。子。に。合。は

して。五。売。稔。ぬ。是。昂。告。子。也。又。同。告。子。な。り。と。ん

雖。産。は。有。り。ま。小。雖。産。の。る。わ。る。あ。の。答。を

皆。人。力。の。過。り。故。あり。禽。獸。魚。小。雖。産。と。同。く。

の。恥。く。扱。人。力。は。あ。る。と。お。わ。り。云。の。人。力。わ。り

れ。の。人。力。あ。る。と。い。ふ。又。人。分。と。い。ふ。又。と。わ。る。う。

用。ゆ。ゆ。

拙者わづかし朋友とも比合ひあの出入でいりと晝夜しゆやを苦くるみの

けふは
 二日
 又付て
 おうき
 市占
 軒
 公羽の
 にま
 日。珠
 り
 子
 り
 と

宝くすり。其宝小傳とて命と結ぶ人多し。

命と編る宝ありは宝なりこそありありぬ。眞の

室より物へ人々所持多し。性根玉なり。け玉と

室に初^{はつ}め^めの^の人^{ひと}を^を己^{おれ}が^が勝^{かつ}て^ての^の要^{よう}と^とい^いふ^ふ小^こけ^け玉^{たま}

瑕と付。而也。其瑕とまらと知。ん。沙汰。恨了。

月つきふれて玉たまは光ひかりとあふふに至る。玉不磨光なり。

日く小磨と文日よ磨と。明德と研出を磨く。

古語曰。不宝金玉而忠信以為寶。又曰。爾以玉為寶。

我以不貪爲室

其次八種上

才さいの義ぎ小こ付つて由よし占うちて。公こう明めいの曰いはふ。余あ才さいの

とめしむ。拙者才別家つて七年余おき

是を度く世話してをせども。兎角渡せし

不精ふせいにてこのまに隙ひまもすゝくふづま不修ふしうり。其上そのうへ拙劣ちやくれつの異見いけんと

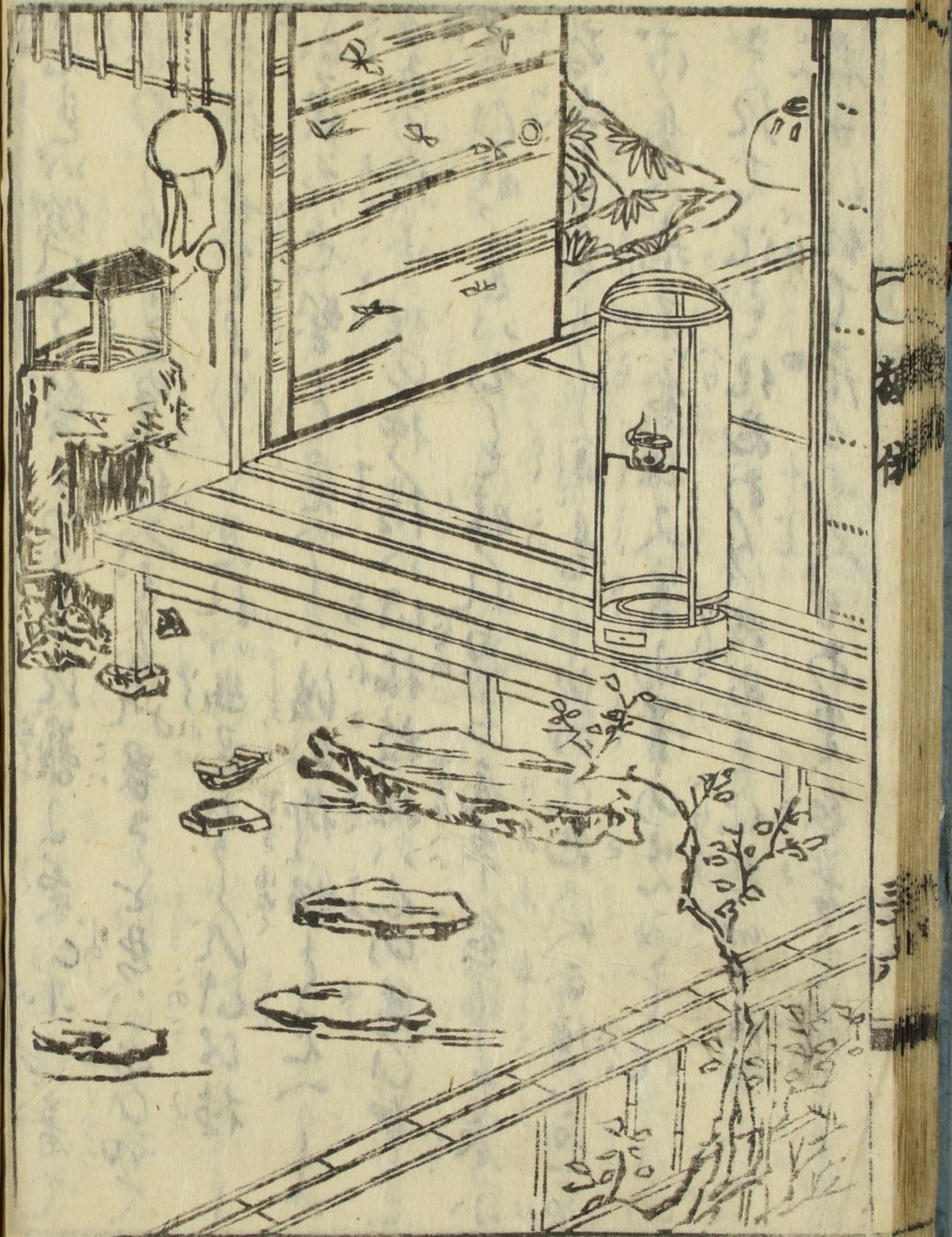
不用。兄と兄とも思はぬ不存。事終つてんて

と。若や〜同く。永兄也。君臣夫婦。明後日。ふ
 こゝ。義絶といふ。すもわい。親子兄弟の中にも。義絶
 といふ。ゆゑ。ある者。可ら。指は
 き。こゝ。れ。と。切。捨。次。す。其。え。の。心。底。お。才。と
 我。才。と。い。ふ。故。兄。と。兄。と。い。ふ。ぬ。る。と。腹。肘。と。い。ふ。
 才。行。じ。や。親。の。不。便。と。思。は。る。み。で。無。故。強。か。し。出。生
 した。次。生。く。ま。う。る。次。述。先。の。ま。い。い。あ。る。と。皆
 親。の。子。ふ。ら。び。い。は。す。ひ。我。も。親。の。子。也。才。も。親。の。子。也。
 親。の。あ。ま。き。と。付。て。親。の。心。と。せ。活。と。せ。は。世。活。も。世。活。
 一。成。ま。う。れ。と。扱。入。り。活。に。は。採。わ。ん。様。町。の。い。事。也。

二百目のかひは。活くも。首。切。て。死。す。と。す。け。い。初
 も。知。ぬ。も。妙。會。う。る。二百目の事。め。に。こ。ひ
 で。こ。ひ。ま。う。る。死。を。せ。は。ま。い。い。と。い。ふ。も。
 今。夜。中。小。首。切。て。死。す。ん。と。血。の。涙。で。い。う。も。
 ぞ。と。初。め。の。心。裏。見。い。や。つ。と。親。子。實。と。い。ふ。
 稀。な。ん。と。い。ふ。も。お。金。才。れ。と。活。死。な。る。と。い。ふ。
 跡。つ。ん。ふ。あ。ぬ。様。よ。と。い。ふ。と。世。活。め。と。い。ふ。
 世。活。と。い。ふ。た。と。言。う。と。世。活。の。は。や。う。の
 春。と。見。つ。い。れ。と。い。ふ。と。世。活。の。は。や。う。の。

もあり。腐く茹子が暮小にて。人よりけり。此
の里又愛ふ。我豪家の某の妻女。病し所より年
余り。勞瘵といふ病也。法匠多とせせと驗ふ。
元氣は才小衰ふ。看病人多れ申ふ。改といふ。
り。わたり。晝夜病婦の側と不眠。父抱ふ。此
飲食起居二便の技け。改なりて。不調。病婦將死
と記。其夫小向て曰。我永くの病床にてもなる
南じき改が父抱。死く。妻が歎見と思ふ。父改と
加へ給ふ。いと云遠く命。決然。新あて。三ヶ
日月。里。婢改病し所。其症見き。の病婦。は担

似る。醫師ハ勿論。法有諸山の祈。新妙。つと
と。いと定業。や。今ハ新すく。き。見。改。父方
の伯又あり。訪て曰。汝の養生。父小余。けり。難治ハ
天命也。有が。臨終せよ。若し。を。わ。を。を。べ。
改。曰。如作有。これ。父抱。の。不足有。を。わ。ん。
ま。さ。が。い。ひ。と。山。迷。ひ。の。解。さ。る。と。れ。あり。ま。人。身。
は。り。給。ひ。て。後。さ。日。目。の。夜。裏。へ。出。し。小。え。ん。と。ら。
ま。い。沙。王。人。千。載。小。ま。給。ひ。物。要。げ。小。我。と。振。く。是。と。
見。る。より。身。を。え。き。る。病。の。本。明。々。の。夜。ま。さ。
裏。へ。出。し。又。あ。の。夜。の。如。く。我。と。振。く。其。後。は。夢。と。も。



孟子曰。盡其心者。知其性也。知其性則
知天矣。

虛心齋著

跋

至禱る戒賣ト先生ノ言近ク
最卑俗の風論ノ長セリモ亦
其旨遠く人の心ヲと
其外ヤ一歩しモ人
心

言と廢さぬい先哲のい海先
 親氏も依は不依人ともや説き
 小真人と知るべしといふとつ
 思ふト病乃學精一の梓田を
 神のものにあつてもいふてけ糠紙

掃集ある事といふん世の人此儀と
 して来て小律は入持をく胡マ
 身心の垢と洗ひまゝあつたとたぬを
 世活ときまの神のい流をさるべし
 諸庵

安永六年酉六月

弘所 京都 書林

二條通教王町東入町

山本長吉

一、東通町三條西入

八、又、金、仁、治、江

